



安藤 悠 (はるか)
早稲田大学大学院 創造理工学研究所 卒
株式会社 スペース
所属：商環境研究所 クリエイティブ部2課

「人を取り巻く空間づくりのお仕事」

大学時代、建物自体と内部をつくっているのは別人だと初めて知りました。大抵の場合、建物は箱が決まってから内側が考えられますが、建築を学ぶ中で、内からの発信があってもいいのでは…と考えるようになり、人を取り巻く空間づくりのお仕事を志望するに至りました。内装に関する知識が殆ど無かった私にとって、空間に纏わる全てを手掛けるスペースは幅広い経験の積める場所だと考えています。

「案件ごとに、違う考えの方々と連携」

実際に内装の仕事をする中で強く感じる事は、店舗運営、建築、施工の各担当者との打ち合わせの中で空間が決まっていくという事です。案件ごとに、違う考えの方々と連携をとりながらプランを決定していく過程は学ぶことが多く、経験を積まれた方々の膨大な知識量にはいつも驚かされます。

「積極的に他分野の方々と関わり、刺激を受けていきたい」

店舗は商品売るためのものではなく、ブランドそのものを表わすものだと思います。店づくりの仕事をする者として、内装にとどまらず、建築やディスプレイ、サイン等々、空間に存在する全てを意識した仕事をしていきたいです。その為に、今後も積極的に他分野の方々と関わり、刺激を受けていきたいと考えています。



next HERO

明日の君へ…

新入社員が入社動機から仕事に対する想い、期待、不安、将来のビジョンを語る



「街の景色をつくるという仕事」に華やかさを感じ」

卒業後はアパレルの販売員として5年間勤めておりましたが、転職して今の会社に入社致しました。元々デザインやもの作りに興味があったことや、業種は違いますが常に流行を追うといった共通点がある広告業界に魅力を感じ志望致しました。入社した当初は先輩に駅の媒体や店舗の看板など、現場に付いている自社の製作したものを実際に見せて貰いました。入社の際に「前のアパレル業界とは違い、この業界は思っているよりも地味な仕事が多いけど大丈夫か」と社長に言われましたが、その時はまだ「街の景色をつくる」という仕事に華やかさを感じ、早く自分も関わりたいと思いました。



「クライアントのイメージを具現化し、満足して頂く喜び」

入社してから日が経つにつれ、社長に言われた言葉が嘘では無いという事を実感しました。広告の設置となれば事前に現地に行き、サイズや下地を調査、現場では作業着を着て職人さんと共に汗を流す事も度々あり、時には休日の深夜に作業に行くこともあります。前職から全く異なる環境に半年から一年は慣れる事ができず、心身共に辛い事も多くありました。それでも上司・先輩方に助けられた事で不器用ながらも少しずつ経験を積む事ができ、徐々にですが一人で仕事をこなした時に楽しさを感じ始めました。何よりもクライアントがイメージしたものを具現化し満足頂けた事、自分の関わったものが街の景色の一部になるという事に非常にやりがいと喜びを感じました。



「常にアンテナを張っておく事」

入社して4年が経った今でもミスや分からないことは沢山ありますが、上司・先輩方に教えられた「常にアンテナを張っておく事」がこの業界にもっとも必要な事だと私は感じています。ぼーっとしているとすぐに置いていかれてしまうこの業界、つい見過ごしてしまう小さなことでも、それを拾い活かしていけるような営業を心掛け、「常に新しい情報をお客様へ伝え、常に新しい事にチャレンジする」この姿勢をこれからも心掛け、私自身が成長し続ける事で少しでも社会に貢献できればと思います。



石松 佑哉 (ゆうや)
大原簿記専門学校 卒
サカタラポステーション株式会社
所属：東京営業部 第一営業グループ